

近代

第10章 近代国家の成立 2. 明治維新と文明開化 (3) 殖産興業と地租改正

明治期の郵便遞送人とマラソン



郵便遞送人(坂根郵便局)
時代の金子長之助



金子(綾木)長之助
1883.5.26 - 1969.6.28

岡山県西粟倉村坂根生まれ。
(のちに鳥取県智頭町八河谷の綾木家の婿養子となる)

『鳥取県人物伝—20世紀を支えたふるさと先人群—』より転載

【郵便制度】

郵便制度は1840年に英国で確立し、日本では1871(明治4)年に前島密の建議により、東京—大阪間で始まった。駅遞司が管掌し、それまでの飛脚による郵便物の運送を禁止し、郵便事業を国家管理の下に置いた。郵便業務を末端で担う郵便取扱役と取扱所(1875年より郵便局)には、地方の資産家と自宅が充てられた。鉄道等が未整備の時代・地域においては、郵便局間の郵便物の運送は、郵便遞送人が担っていた。

解説

1909(明治42)年3月21日、日本最初のマラソン大会の優勝者の金子長之助は、岡山県大原一坂根—智頭郵便局間の元郵便遞送人で、江戸時代の参勤交代路の志戸坂峠(標高581m)を越えて、大原—智頭郵便局間の郵便物を定時までに運んでいた。徴兵で鳥取四十聯隊に入隊し、浜坂砂丘での演習後の聯隊兵舎(岩倉)までの徒競走ではいつも一番だった。日露戦争後、郷里で日本最初のマラソン大会(大阪毎日新聞社主催の神戸—大阪20マイルマラソン)のを知り、在郷軍人会の推薦で参加した。この大会は、1912年のストックホルム五輪のマラソンに選手を派遣する意図があり、優勝賞金300円の他に国際大会参加旅費1,000円を支給することになっていた(但し英語を解する者という条件もあり)。

参加資格は学歴者・学生・軍人で、応募者408人のうち書類審査・体格検査に合格した120人が、3月14日に鳴尾競馬場の馬場を4組に分かれて10周(約16km)走り、各組上位5人の計20人が3月21日の本選に出場した。神戸の湊川埋立地を出発した長之助は御影で7位、西宮でトップに立ち、ゴールの西成大橋(淀川大橋)では2位に約5分の差をつけて2時間10分54秒で優勝した。当時のスポーツは学生のものであり、主催者も一般人が優勝するとは思っていなかったようだ。

このマラソン大会開催のきっかけは、大阪毎日新聞社の相嶋勘次郎政治部長がたまたま「ドランドの悲劇」で有名なロンドン五輪のマラソン競技を見て、その様子を大阪毎日新聞に連載したことであった。

また、大会翌年(明治41)の10月17日には、鳥取県でも因伯時報主催で「マラソン大競走」(参加者75人)が行われ、鳥取裁判所—河原往復(約24km)のコースを走り、智頭宿の江見治作が1時間45分30秒で優勝している。江見もまた、郵便遞送人で、この大会では上位10人中3人が郵便遞送人、4人が人力車夫だった。

(担当:小山富見男)

参考資料

- 『大阪毎日新聞』明治42年2月19~4月8日
- 『因伯時報』明治43年10月8日~11月8日
- 鳥取銀行『鳥取県人物伝—20世紀を支えたふるさと先人群—』新日本海新聞社編(1998年)